

# ご説明内容

- 自己紹介
  - 私たちは誰？
- 背景(近年の災害支援について)
- 広域連携の取り組み
  - 静岡県の取り組み
  - 東京都の取り組み
  - 神奈川県の場合
- 本プロジェクトについて
  - 本プロジェクトの名称と目的
  - 本プロジェクトの実施計画(案)



# 自己紹介 私たちは誰？

## ・ 沢田健介(さわだけんすけ)

- ・ 神奈川レスキューサポートバイクネットワーク 副代表
- ・ 神奈川災害ボランティアネットワーク 理事
- ・ しずおか茶の国会議 メンバー
- ・ 会社員 横浜市神奈川区在住
- ・ 2004年から会社員の傍ら、被災地支援活動に従事
  - ・ 2004年新潟県中越地震、2007年新潟県中越沖地震、2011年東日本大震災、2011豪雨、2016年熊本地震、2017年九州北部豪雨、2018年西日本豪雨などで、主にボランティアセンタースタッフ、ボランティアコーディネータ、バイク隊として活動



## ・ 市原信行(いちはらのぶゆき)

- ・ やまと災害ボランティアネットワーク 代表理事
- ・ 神奈川災害ボランティアネットワーク 理事
- ・ よこはま・七つ星 理事
- ・ 会社員 大和市在住
- ・ 大田区で消防団活動2000年ごろまで
  - ・ 東日本大震災では東松島に約5年間避難者と共にボランティア活動
  - ・ 東松島市、同社会福祉協議会、石巻市、大和市社会福祉協議会、神奈川県社会福祉協議会などから災害ボランティア等の感謝状、表彰多数



# 背景 近年の災害支援について

- 災害の激甚化
  - 大震災は数年に一度、水害はほぼ毎年発生
  - 南海トラフ、首都直下型地震の脅威
- 支援体制の変遷
  - 1995 ボランティア元年 市民が互助の精神で支援活動に従事
  - 2004 社協が運営する災害ボランティアセンターが一般化
  - 2011 社協ボランティアセンター196ヶ所 & 民間ボランティア団体協働
  - 2016 JVOAD発足 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)
    - 東日本大震災の教訓から団体の連携・コーディネーションを担う組織が登場
  - **2019 広域連携が本格化する時代へ**



# 背景 広域連携の取り組み ～静岡県の場合～

## ・ 静岡県図上訓練(通称)

- ・ 正式名称: **静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練**
- ・ 主催: NPO法人 静岡県ボランティア協会
- ・ 実施主体: 静岡県ボランティア協会、ワーキンググループ(WG)
- ・ 助成: 日本財団(2017年度以降、それ以前の9年間には静岡県労働者福祉基金協会の委託事業)
- ・ 内容(静岡県ボランティア協会webより引用):
  - ・ 南海トラフ地震等により、静岡県内の複数市町が被災すると、公助のみならず、様々な立場の民間組織等による支援活動が行われることが想定されます。**被災者・被災地支援のために、市域、県域、県外との「つながり」を意識した支援体制を創造することを目的とした訓練(ワークショップ)**
  - ・ 静岡県外からの関係者も多く参加していることから、広域災害時の「受援」を意識した訓練として、全国的に注目されている
  - ・ 2019年の第14回訓練では、多様な事例を学び、次のアクションを起こすことを目指すことを目的として訓練が実施されました(毎年目的を設定)。
  - ・ **この訓練は災害対応を検討する「シミュレーション型図上訓練」ではない**



# 静岡図上訓練2019の様子

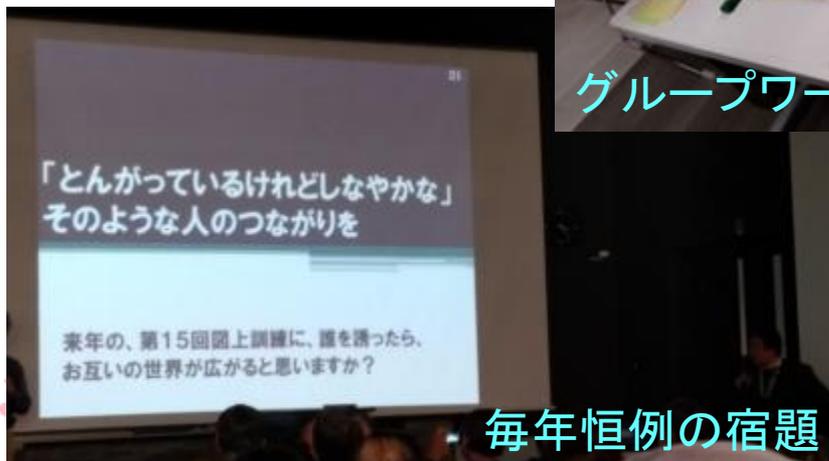
事例報告



参加者交流会



グループワーク



毎年恒例の宿題



支援者たちの交流

災害対応を検討する「シミュレーション型図上訓練」ではない...ことがわかりいただけますか？

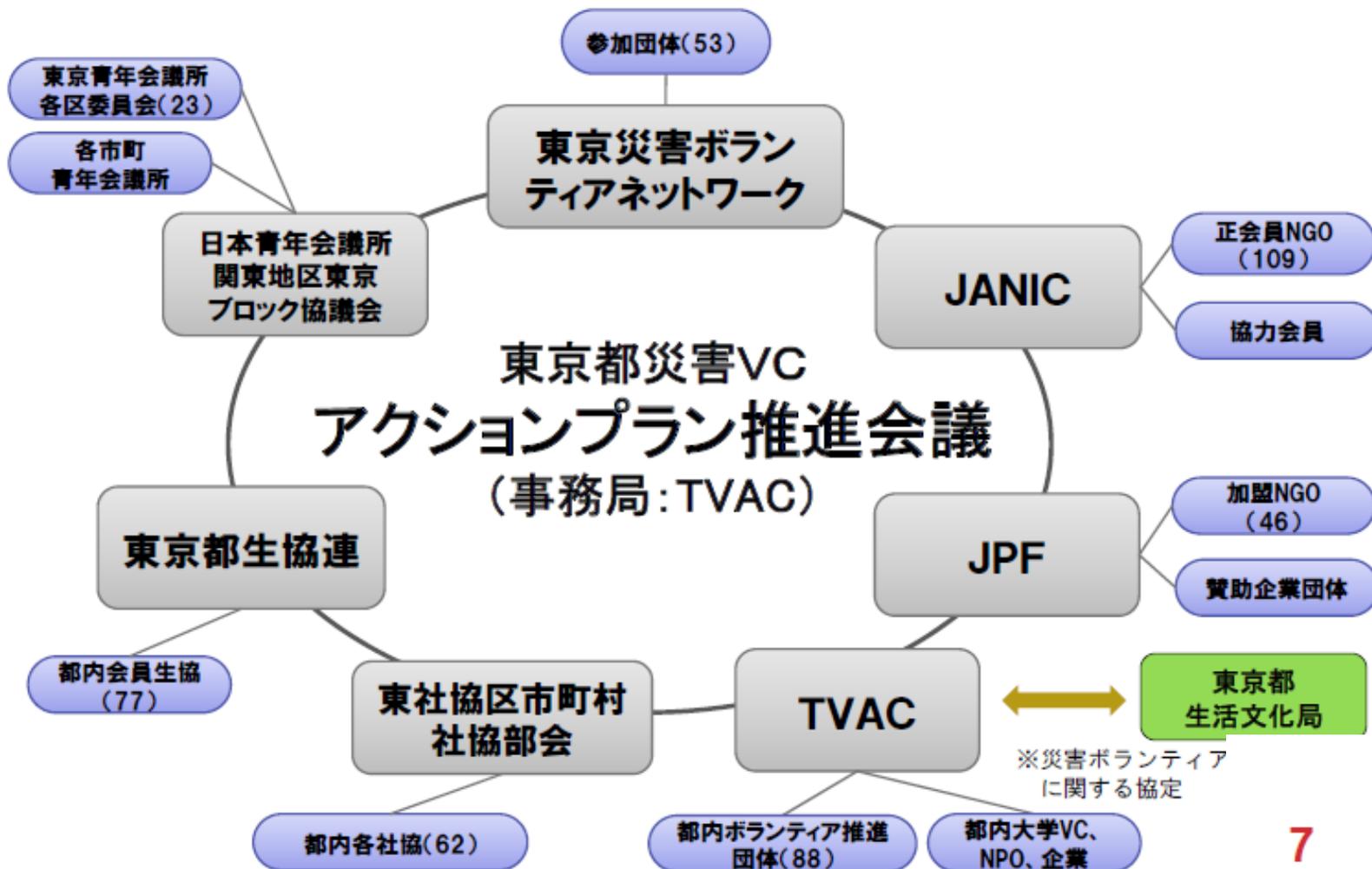
## 背景 広域連携の取り組み ～東京都の場合～

- 東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議
  - 実施主体(事務局): 東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)
  - 内容(資料提供TVAC):
    - **東京都域でさまざまな支援活動を調整する機能(以下)を準備**
      - 海外・全国からのさまざまな支援を被災地・被災者につなぐ機能
      - 都域の被害・支援の全体像を把握し、支援の重複や抜け、漏れを調整する機能
      - 行政(東京都など)の支援と民間団体による支援の調整機能
    - NPO・NGO、社協、民間団体、行政など、被災者支援に関わる多様なセクターによる委員会を設置
    - **災害が起こる前の取り組みを重視**
      - **人材育成、ネットワーク作り、災害VC設置運営、広報スキル・技術の共有**
    - 平時に取り組むべき「アクションプラン(5か年の中期実行計画)の策定



# TVAC概念図

(図は第1期「アクションプラン」(2014.4~2019.3)時のもの。TVAC提供)



「災害が起こる前」に必要な準備(都域連携)をすることで災害に備えている

# 背景 近年の災害支援について～神奈川県～

- 神奈川県内：
  - 「災害発生前」に県域、および県外の機関と連携をする仕組みは無い
  - 「災害発生後」に発動する協定(四者協定)はある
    - 四者協定: 神奈川県、神奈川県社協、共同募金会、神奈川災害ボランティアネットワークによる協定

神奈川県で甚大な災害が発生した際、

- ・ 県内連携はできない？
- ・ 県外からの支援者は誰を頼ってやってくる？



# 本プロジェクトについて 名称と目的

## ・ 名称

- ・ 被災地支援者のための神奈川県域連携プロジェクト(仮称)
  - ・ Kanagawa wide area cooperation project for disaster responders (tentative)

## ・ 目的

- ・ 神奈川県内で大規模災害が発生した際に、神奈川県内外の支援者のための情報の適切な整理・提供・活動マッチングなどを円滑に行うための仕組みづくりの一環として、神奈川県内外の支援者を繋ぎ、顔の見える関係を拡大する仕組み作りに取り組む

## ・ 目的を達成するための手段

- ・ 「災害発生前」に、あらかじめ県内外の機関・団体がつながっておき「災害発生後」は速やかに連携できる関係を作っておく
  - ・ そのためには？ → 県内外の支援者同士が、平時から顔の見える関係を築いておく
  - ・ 顔の見える関係とは？ → お互いに電話一本で無理をお願いできる関係  
(団体対団体の関係では構築しづらい関係)
  - ・ 顔の見える関係を築くには？ → 神奈川県版図上訓練(のような仕組み)
  - ・ 誰が？ → 本プロジェクトの参加者



# 本プロジェクトについて 実施計画 (案)

## ・ 計画(案)

- ・ 本プロジェクトの実行委員会を設立
  - ・ 2019年7月活動開始予定
- ・ 神奈川県版図上訓練を実施・実行するためのワーキンググループを立ち上げる

## ・ 体制(案)

- ・ 主体:代表、顧問、委員
- ・ 協力者:共催、後援、協力

## ・ 予算(案)

- ・ 実行委員会およびワーキンググループ活動のための費用は後援・協力機関からの寄付金(～数万円)により賅う
- ・ 神奈川県版図上訓練(参加者200～300人規模)の実施に必要な費用は、参加費および助成金(～200万円)により賅う



## 実行委員会の運営について (案)

### • 今後の連絡先等

- 現在はfacebookグループで情報共有と連絡調整を行っています
  - 神奈川版災害ボランティアのための図上訓練準備会Facebookグループ
    - <https://www.facebook.com/groups/394945057915802/>
  - ワーキンググループ(WG)の連絡調整はFacebookグループを使用予定
  - 後援・協力機関との連絡調整は電子メールを予定
    - [kanagawa.wac.project@gmail.com](mailto:kanagawa.wac.project@gmail.com)

### • 広報

- <https://kanagawa-wide-area-cooperation-project-for-disaste.jimdosite.com>
- Facebookページ(近日開設予定)

### • 第1回実行委員会の開催日時について

- 候補1 2019年7月2日 19:00～20:45
- 候補2 2019年7月4日 19:00～20:45



アンケートへのご回答をお願いいたします

